

平成22年度アルミニウム二次合金地金・同二次地金並びに  
鋳物・ダイカスト用アルミニウム一次合金地金需要見通し

平成 22年 3月19日  
(社) 日本アルミニウム合金協会

平成21年度の日本経済は、一昨年秋に端を発したアメリカの金融・経済危機に伴う世界的な同時不況の影響により、深刻な事態に陥った。とりわけ我が国主要産業の場合、外需依存度が高く、海外市場低迷の影響が複合的に作用したため、深刻度はより大きかった。

このような経済環境の中で、当アルミニウム合金業界においては、厳しい雇用・所得環境による消費の冷え込みの影響が主要需要先である自動車業界を直撃したことにより、主力の鋳物・ダイカスト向け需要が前年度比マイナスとなったほか、圧延・鉄鋼向け需要など全ての部門においてマイナスを示したことから、平成21年度アルミニウム二次合金地金・同二次地金需要は1,425,500トン(対前年度比94.3%)が見込まれる。

平成22年度については、政府は、累次の景気対策効果により、民間需要が底堅く推移することに加え、世界経済の緩やかな回復が続くことを期待して、1.4%程度の実質経済成長率を見込んでいる。

このような状況の中で、平成22年度アルミニウム二次合金地金・同二次地金需要見通しを次のとおり策定した。

- (1) 鋳物・ダイカスト向け二次合金地金需要については、デフレ圧力の高まりによる需要の低迷や為替の動向等が懸念されるものの、国内四輪完成車生産や四輪海外生産用部品輸出の回復が期待されるため、3年ぶりのプラス成長が見込まれる。
- (2) 圧延向け二次合金地金・二次地金需要については、圧延品需要において自動車部材向けや政府の住宅刺激策効果による建材向けの回復が期待されるため、微増が見込まれる。
- (3) 鉄鋼・その他向け二次合金地金・二次地金需要については、国内粗鋼生産増が予想されるため、プラス成長が見込まれる。

以上の状況から平成22年度のアルミニウム二次合金地金・同二次地金需要見通しを、3年ぶりのプラス成長となる1,471,500トン(対前年度比103.2%)と策定した。

また、平成22年度鋳物・ダイカスト用アルミニウム一次合金地金需要見通しは、217,900トン(対前年度比103.5%)が予想される。

平成 22 年 度

アルミニウム二次合金地金・同二次地金需要見通し

平成 22 年 3 月 19 日

(社)日本アルミニウム合金協会

(単位：トン)

| 項 目    | 平成20年度    | 平成21年度実績  |       | 平成22年度    |       |
|--------|-----------|-----------|-------|-----------|-------|
|        |           | 見込み       | 前年度比% | 見通し       | 前年度比% |
| 鑄 物    | 288,151   | 278,800   | 96.8  | 282,400   | 101.3 |
| ダイカスト  | 862,238   | 828,600   | 96.1  | 864,100   | 104.3 |
| 圧 延    | 236,454   | 204,000   | 86.3  | 206,900   | 101.4 |
| 鉄鋼・その他 | 125,500   | 114,100   | 90.9  | 118,100   | 103.5 |
| 計      | 1,512,343 | 1,425,500 | 94.3  | 1,471,500 | 103.2 |

注1) 輸入地金を含む。

注2) 平成14年1月より、経済産業省統計の統廃合があり、鉄鋼・その他は当協会推定値となっている。

平成 22 年 度

鑄物・ダイカスト用アルミニウム一次合金地金需要見通し

(単位：トン)

| 項 目   | 平成20年度  | 平成21年度実績 |       | 平成22年度  |       |
|-------|---------|----------|-------|---------|-------|
|       |         | 見込み      | 前年度比% | 見通し     | 前年度比% |
| 鑄 物   | 155,851 | 144,500  | 92.7  | 148,800 | 103.0 |
| ダイカスト | 70,634  | 66,100   | 93.6  | 69,100  | 104.5 |
| 計     | 226,485 | 210,600  | 93.0  | 217,900 | 103.5 |

注1) 輸入地金を含む。